

NMO OfficeLetter

京都銀行FGがリース会社買収

京都ファイナンシャルグループ(FG)は2月29日、三菱HCキャピタル子会社の大阪市積水リースを買収し連結子会社化することを発表した。買収金額は約36億円。京都銀行が1941年(昭和16年)発足して初のM&A案件となる。

＜解説＞積水リースは積水化学工業が1979年に設立したリース会社。2002年に三菱HCキャピ

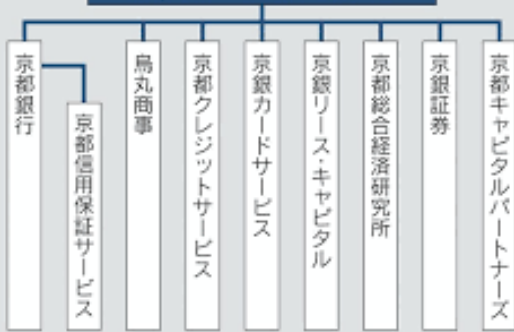


京都
フィナンシャル
グループ

タルの傘下に入った。積水化学グループの企業向けリースを中心に機械や設備のリースを行っている。2023年3月期の売上高は124億円。京都FGは6月に三菱HCが保有する全株式の約90%を譲受け、完全子会社化する。また、京都FGは今春債権回収会社(サービサー)の事業を行う会社を設立し、社名を「きょうと事業再生債権回収」とすることを発表した。資本金は5億円で本社は京都FG内に設ける。4月1日に設立し、10月から事業を開始する。金融機関が保有する企業への貸付債権などを買い取り、返済や再生に活用する。中核会社の株式会社京都銀行は地銀としての経営基盤を多角化することで、収益の安定を図る。今後地銀の生き残りをか

京都ファイナンシャルグループの体制

京都ファイナンシャルグループ



(注)一部、今後社名変更の可能性がある

けて、預金を集め貸し出すという従来のビジネスモデルからの脱却を図る。多くの地銀、信金は今後大きく淘汰の時代を迎えることが明らかになっている。人口減少に伴う事業の縮小が地方では避けられず、消滅する危機に瀕する自治体も多く出ると推測されている。当然、地銀も信金も同様の消滅の危機は避けられず、構造改革が待たなしの時代を迎えている。つい最近も、東京都内の小規模の信金同士の合併が発表された。地銀も同様で、関東のある県では同一県の中に本



京都ファイナンシャルグループの歩み

1941年 10月	京都府北部の四つの銀行が合併し、丹和銀行に
51年 1月	京都銀行に改称
84年10月	東京証券取引所に上場
2017年 5月	証券子会社「京銀証券」の営業を開始
23年 10月2日	京都ファイナンシャルグループを設立し、持ち株会社体制に移行

店がある地銀が3行もある地域が存在する。地方銀行の存在価値、そのものが問われており、本来の金融機関としての機能以外の価値が求められている。大きな場所を占める本店や支店も必要なくなり、ATMも急激に削減する動きが激しい。最近ではNETでほとんどの機能が完結し、金融機関の本店や支店のカウンターに出向くことがなくなりつつある。京都FGは早くからこの傾向を察知し、金融機関の機能のみならず、多角化することでの生き残りを図る。今後毎年1社ずつFGグループの社数を増やすという。